



# 読売巨人軍キャンプ視察

日 時： 2月18日(水) 10時～16時

訪問先： 那覇市 沖縄セルラースタジアム那覇

内 容： 読売巨人軍キャンプ視察

報告者： 佐藤 雅幸(経済学部教授)、吉田 清司(法学部教授)、佐竹 弘靖(ネットワーク情報学部教授)、  
佐藤 満(経営学部教授)、久木 留 毅(文学部教授)、平田 大輔(文学部教授)、渡辺 英次(商学部准教授)、  
時任 真一郎(法学部准教授)、李宇 諤(法学部准教授)

2月18日(水)、那覇市沖縄セルラースタジアム那覇にて読売巨人軍(以下、巨人)キャンプの視察を行った。今回の視察は本研究所長佐藤雅幸教授が長年巨人選手の心理サポートや教育プログラムに参画している事が縁で実現した。

巨人の春季キャンプは2月1日から宮崎県でスタートし、16日の練習終了後に沖縄に移動、17日の休養日を挟んで18日から那覇市でゲーム中心のキャンプを行う予定になっており、最終日が26日となっている。

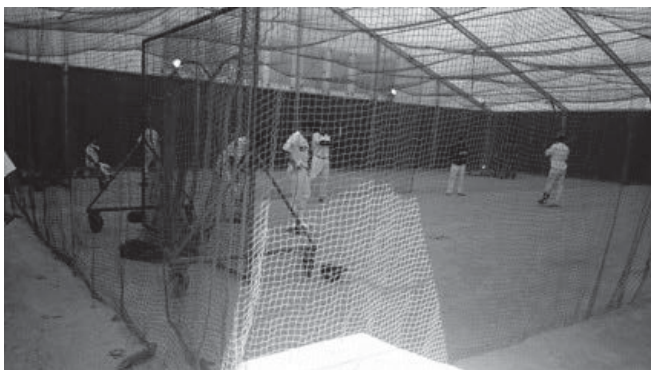
今回の視察から「チーム作り・コンディシ

ニング」「ファンサービス」「経済効果」の3つの視座から報告を行う。

## 1. チーム作り・コンディショニング

今回の視察時期でのキャンプは2月1日から宮崎キャンプ後の後半戦となることから、試合中心のスケジュールとなっていた。通常、1月には各選手自主トレを行い、体力的にある程度仕上がった状態でキャンプインすることとなる。この時期も宮崎では引き続き2軍のキャンプを行っていることから、ケガ等で調整中の選

手を除き1軍選手は基本的に那覇入りしている。那覇入りした若手選手においては1軍生き残りをかけて首脳陣にアピールする機会であり、少ないチャンスをしっかりものにしなければならない。当日のスターティングラインナップ、交代選手、投手陣のほとんどが若手中心のメンバーであり、今年度ドラフト指名選手も初登板したことからも首脳陣の意図も伝わってきた。また、首脳陣だけでなく、全日本チーム監督や他球団スコアラーらの厳しい視線にも曝され、ペナントレース前にすでに情報戦が始まっていることを感じる事ができた。



打撃練習ブース、試合前に多くの選手が練習に打ち込んでいた。



試合前、陸上競技場でトレーナーによるウォーミングアップを行っていた。



各施設に設置されているわかりやすい案内看板



試合前のグラウンド練習。本日の対戦相手サムスン・ライオンズ。

開幕まで約1ヵ月あるが、主要メンバーが揃い始める3月には出場チャンスも少なくなっていくことが予想されることから、若手選手においてはこの2月下旬がこの1年を左右する重要な時期となり日本シリーズ終了後11月からのウインターリーグへの参加等の日々の努力の成果が実を結ぶこととなる。

グラウンドにいる選手達を見て、体格の良さには目を見張るものがあった。日本プロ野球選手の体格の推移についての資料では、平均身長が2002年時点で180.1cm、平均体重が79.4kgであり、阪神の藤波選手が197cm、北海道の大谷選手が193cmであることから年々大型化が進んでいることが予想される。3月末から10月までの長いシーズンを耐えうるケガの少ない体を維持管理するためには当然ハードなトレーニングメニューをこなしていく必要がある。技術はもちろんであるがケガのない選手が競技を継続し、トップチームであるプロ野球に身を置くことができる事からも、いわゆる体格の良さは必要条件となり、競技特性のひとつといえるであろう。

## 2. ファンサービス

最寄りの奥武山公園駅を降りたところから球

場まで幟が数多く立っており、キャンプの歓迎ムードを盛り上げている。球場近くには監督はじめ選手のパネルが並び、正面ゲート入り口にはステージと大型モニタが設置され、ファン交流イベントが行われている。試合前には見学ツアーが開催され、ブルペン見学やグラウンド内に入って選手のウォーミングアップが間近で見学できるように企画されていた。また、ボールパークエリアも設置され、ストラックアウトや体力測定、スピードガン、ティーバッティングコーナーがあり、老若男女問わず賑わっていた。巨人選手の選手名鑑が無料で配布され、出身地出身校などが記載されている。新入団選手についてはプロフィールが多めに記載されていた。グラウンド、ブルペン、競技場、打撃練習場にどの選手がいるリアルタイムで張り出され、併せて春季キャンプ特設 facebook では応援する選手がどの場所にいるか把握できるようになっていた。ミックスゾーンのようなところもあり、通りかかった選手にファンが声をかけ、選手が気軽にサインに応じる姿も見かけ、ファンを大切にしている印象を受けた。試合は韓国サムスンライオンズとの練習試合であり、観客席は無料開放され、地域の保育園児、高齢者の方々も多数見受けられた。観客席の一角に関係者席が設けられており、プロ野球関係者が多く

視察に訪れていた。当日の先発が地元沖縄出身の宮國投手であった事も地元の方々にとっては喜ばしい事であったと思う。

## 3. 経済効果

りゅうぎん総合研究所の調査によると、2014年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は88億8000万円となり、過去最高額であった。要因としてあげられているのは広島東洋カープのキャンプが沖縄で再開したこと、WBC日本代表キャンプが影響しなかったこと、天候に恵まれたこと、観光を背景とした県外からの観客数が増加したこと等が挙げられていた。併せて、観客数増に伴う宿泊費(13億5900万円)、飲食費(10億6000万円)の増加や練習施設の整備費(11億4300万円)の増加も挙げられていた。球団別では巨人が21億6500万円と最も多く、次いで阪神タイガースの14億4100万円となっており、巨人が突出していることが分かる。今年度も同じく10球団、韓国チーム6球団がキャンプを行うこと、広島の黒田選手、北海道の大谷選手らの注目度が高いことなどからも昨年度以上の経済効果が期待されているのではないかと考えられる。



左から平田所員、内海投手、佐藤満事務局長、久保投手、佐藤雅幸所長



球場周辺には幟や看板が多く設置されている。野球の情報だけでなく、近隣のグルメスポットや観光情報も掲載されていた。



左から、菅野投手(185cm)、李所員(186cm)、小山投手(187cm)



正面入り口。巨人軍春季キャンプを歓迎するポスター、幟が並んでいた。



一方、球団に付随する部分で注目すべき点として巨人のユニフォーム契約は 2006 年から 9 年間アディダスとの契約を続けていたが、2015 年 1 月からアンダーアーマー社に変更となった。アンダーアーマー社は 1996 年創業比較的若いブランドではあるが、アメフト、サッカー、バスケットボール等では数多くの実績がある。しかしながら野球のユニフォームを手がけるのは初めてとの事であり、フラッグシップとしての宣伝効果も高いと推察される。キャンプ地では既にブースが設置され、多くのファンがグッズを買い求める姿が見られた。今後個人契約も含めて多くの選手が同社の製品を使用し、我々が目にする機会が増えるであろう。

## 所感

TV 放映の減少やサッカー人気に押されてここ数年、個人的にはプロ野球人気に陰りが見えてきたのではという印象を持っていたが、ファンサービスに力を注ぎ細かい配慮がなされ、整備されたキャンプ地と観客数だけではなくプロ野球関係者、マスコミ関係者が多数押し寄せるプロ野球のマーケットの大きさをあらためて実感す

ることができた。今年度は Jリーグチームも 13 チームがキャンプを行っている。インフラが整備されることにより 1 月には自主トレで沖縄入る選手も多数あり、2 月のプロチームキャンプ後には社会人、学生チームがキャンプを実施する好循環が生まれており、沖縄県のスポーツツーリズム戦略が実を結びつつあることを確認でき、所員それぞれが関わる競技種目について今後どのような役割を担うことができるか、学生スポーツの中でなにが実現可能かを考える有意義な研修となった。

## 参考資料

調査レポート 沖縄県内における 2014 年プロ野球春季キャンプの経済効果―経済効果は過去最高となる 88 億 8000 万円―、りゅうぎん総合研究所、2014.7.

平成 25 年度スポーツ・ツーリズム戦略推進事業（スポーツキャンプ訪問観光促進事業）実施報告書、沖縄県文化観光スポーツ部、2014.3.

スポーツコンベンション開催実績一覧【平成 25 年度版】、沖縄県スポーツコンベンション振興協議会、2014.7.

プロ野球沖縄キャンプ攻略ガイドブック 2015、スポキャン沖縄事務局、2015.1.

日刊スポーツ web サイト、<http://www.nikkansports.com/baseball/news/p-bb-tp0-20141106-1392451.html>, 2015.2.20 閲覧。

読売巨人軍那覇協力会 web サイト、<http://www.nahacamp.com/>, 2015.2.20 閲覧。

ジャイアンツキャンプインフォメーション facebook、<https://www.facebook.com/Gcampinfo/>, 2015.2.20 閲覧。

中山梯一、日本人プロ野球選手の体格の推移(1950～2002)、体力科学 53, 443-454, 2004.



正面入り口にはステージが設けられ、各種イベントが行われていた。



試合の様様。バッターボックスは本学 OB の松本哲也選手。



球場周辺ではボールパークが設置されていた。写真はストラックアウト。



記者会見ブース。先発の宮國投手が記者の質問に丁寧に答えていた。